

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	児童が学校教育目標に向かっている
目標(評価規準)		・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む。 ・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む。 ・児童は、主体的に学習に取り組む。
重点に係る現状 設定理由		○本校の学校教育目標「自立・貢献」の具現化を図るために、児童並びに教職員がその意義を捉えながら一定の成果が積み上げられてきた。引き続き、日々の授業や学校行事を通して、自己と他者の関係づくりを意識した教育活動を積極的に行い、自己肯定感・自己有用感のさらなる向上を目指していきたい。また、今年度は児童が自立・貢献するために必要な学力の向上を図る必要があると考える。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」という設問に対して、100%肯定的な回答であった。来年度は、さらに子どもたちが学校教育目標である「自立・貢献」という言葉そのものを意識できるよう、掲示等の工夫をしていく必要性を感じるという意見があった。
各アンケート等の結果	<保護者アンケート結果> ○「ルールを守り、協力して学校生活を送っている」「子どもたちが自立の礎となる基礎・基本を身につけるために、適切な指導をしている」「学校教育目標の達成のために取り組んだ行事や児童会活動は有効である」という設問に対して、いずれも肯定的な回答が95%を超えた。 <子どもアンケート結果> ○「ルールを守り、友だちと協力して学校生活をしている」「学校の友だちと仲良くしている」「運動会や社会見学、かがやきのつどいなどの学校行事を進んでやっている」という設問に対して、いずれも95%近く肯定的な回答だった。一方で、「授業や宿題など、すすんで勉強している」という設問に対しては、肯定的な回答が90%を下回った。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<見解> 職員・保護者・子どものアンケート結果から、児童が学校教育目標「自立・貢献」に向けて学校生活を送り、保護者からも概ね良好な評価をいただいていることがわかる。実際、運動会や学習発表会を通して、子どもたち一人ひとりが自身の目標に向けて努力していた。さらに、行事だけでなく、児童会活動の異学年交流では高学年が下級生のお世話をしたり、下級生も高学年の姿を手本としたり、お互いに成長する姿が見られた。このことから、これらの取組は学校教育目標実現のために効果があったと言える。 一方で、子どものアンケートにある「わたしは授業や宿題など、進んで勉強している」という設問に対して、肯定的な回答は90%を下回った。このことから、学習に対しては受け身であるという課題もある。 引き続き、教員自身が学校教育目標を意識し、行事だけでなく、日々の授業を大切に、子どもたちが興味関心をもって学習に臨めるよう工夫していく必要がある。 <改善方策> 本校の教育目標「自立・貢献」は、子どもたちでも覚えやすい言葉となっているので、来年度はその言葉そのものをもっと子どもたちが意識できるよう、掲示物等を活用していきたいと思う。 昨年度も課題であった「学習に対して主体的に取り組む児童の育成」については、今年度、思考力や表現力を身につけさせるような授業を行い、取り組んできた。少しずつではあるが、児童の姿から成果が出ていると感じるので、引き続き、思考力や表現力を育成する授業を目指していきたい。そうすることで、児童が主体的に学習に取り組めるようになると期待している。
学校関係者評価結果	○6年生を送る会を参観して ・一人ひとりがしっかり取り組んでいることがわかった ・昔の子どもたちに比べて、授業や行事の中で、発表する機会が増えているように感じる。その結果が、今日の発表に表れているのだと思う ○中学校の職員より ・中学校で支援級在籍児童も通常級でともに過ごすことができているのは、小学校で思考力や表現力に重点をおいた授業実践の成果だと感じた という評価をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献する。
目標(評価規準)		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感・自己有用感を高め、他者を思いやることのできる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○教職員が、まず、一人ひとりの児童をしっかり理解し、実態を踏まえた上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのためには児童の実態把握、児童指導、授業力等、教職員としての資質・能力を高めていかなければならないと考える。また、児童の自己肯定感を高めるために、日々、教職員が人権感覚を磨き、すべての人の人権が尊重された学校づくりをしていきたい。教職員が授業や児童に関わる時間を保障できるよう、引き続き、働き方改革も推進していきたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「すべての人を尊重した関係づくり、学校づくりをしている」「服務規律遵守、事故防止への意識が高い」という設問に対して、95%肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	<p><保護者アンケート結果></p> <p>○「学校は子どものことを理解しようとしている」「子どもたちが自立の礎となる基礎・基本を身につけるために、適切な指導をしている」という設問に対しては、95%肯定的な回答であった。一方で「学校は家庭との連絡や相談を充実し、連携しようとしている」という設問に対しては、肯定的な回答が約90%という結果であった。</p> <p><子どもアンケート結果></p> <p>○「先生たちはいろいろと工夫してわかりやすく授業をしてくれる」「先生たちはわたしの考えや意見を大切にしてくれる」「先生たちは子ども一人ひとりを大切にしてくれる」という設問に対して、いずれも肯定的な回答が95%近くあった。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p><見解></p> <p>職員・保護者・子どものアンケート結果から、児童のために、教職員一人ひとりが意識を高くもち、子どもたちの成長のために、一人ひとりを大切にしながら教育活動に向き合っていることがうかがえる。また、いじめの未然防止、早期発見のためにも、学期に1回、「生活アンケート」というものを実施している。そのアンケート後には、子ども一人ひとりと担任が面談を行い、子どもの困っていることを把握し、対応するよう努めている。</p> <p>一方で、保護者のアンケートにある「学校は家庭との連絡や相談を充実し、連携しようとしている」という設問に対しては、肯定的な回答は90%であった。慌ただしい日常の中でも、子どもの成長のためには、家庭との連携は欠かせないので、家庭からの相談等に対して、丁寧に対応するよう努めていきたい。</p> <p><改善方策></p> <p>いじめの未然防止・早期発見のためにも、一年間に3回(学期ごと)の生活アンケートは継続して実施していく。その際は子ども一人ひとりと丁寧に面談するよう、今まで以上に職員で共通理解を図っていききたい。また、保護者とも日頃から相談しやすい関係づくりを目指し、家庭と学校の連携を図っていく。</p> <p>また、子どもや保護者からの信頼のためにも、引き続き、服務規律遵守、事故防止への意識を高く持つよう、日頃から働きかけるようにする。</p> <p>現在も担任一人で抱え込まないよう、学校全体で情報を共有し、取り組んでいるが、今後も継続していききたい。</p>
学校関係者評価結果	○日々、様々なトラブルや対応すべき案件があると思う。その際は担任一人で抱えず、職員全員で協力しているということを知って安心した。ぜひ、今後も学校としてお互いを支え合える体制であってほしい。というご意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携を深化する
目標(評価規準)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を図る。 ・児童の安全確保のために、地域や保護者と連携した活動の充実を図る。 	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ○地域での体験学習や外部協力者の招聘などを積極的に行い、児童の知的好奇心や向上心を高めていきたい。 ○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても貢献いただいている「見守り隊」の方をはじめ、地域や関係機関との連携、相互の理解を深めていきたい。 ○児童が地域に対する愛着をもち、地域で生きる一員としての自覚を高めることができるようにしたい。 	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「上宮田小学校は、家庭・地域との連携がなされている。」という設問に対して、100%肯定的な回答が得られた。実際、総合的な学習の時間の授業では、保護者にゲストティーチャーとして話していただいたり、海洋教育では子どもたちの作品づくりに関わっていただいたりした。また、生活科の学習では、駅周辺のいくつかの店や施設に行き、いろいろな話を聞かせていただいた。おかげで、子どもたちの活動が充実し、学びを深めた。保護者や地域の方との連携について成果があったと言える。
各アンケート等の結果	<p><保護者アンケート結果></p> <p>○「行事や学校公開、通信等を通して、児童の様子や学校の方針がわかるようにしている」という設問に対して、95%近く肯定的な回答を得た。また、運動会などの行事はもちろんのこと、授業参観や保護者会、学習発表会にはたくさんの保護者の方に参観いただき、好評を得た。一方で「学校は家庭との連絡や相談を充実し、連携しようとしている」という設問に対しては、肯定的な回答が約90%という結果であった。</p> <p>○児童の登下校については、「見守り隊」の協力を得ている。おかげで、子どもたちが安全に通学できている。今後も連携していきたい。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p><見解></p> <p>上宮田小学校は駅や店、海が近くにあり、いろいろな校外学習や体験活動を実施することができる。また、協力してくださる地域や保護者の方にも恵まれている。おかげで、児童の興味関心を高めたり、理解を深めたりすることができている。引き続き、連携していきたい。</p> <p>また、登下校については「見守り隊」の方のご協力のおかげで、子どもたちは安全に通学できているが、高齢化の問題が今後の課題となる。</p> <p><改善方策></p> <p>子どもたちの学習意欲を高め、理解を深めるためにも、引き続き、地域や保護者の協力を得られるよう努めていきたい。</p> <p>また、学校の関係機関ということで、現在もSCやSSW等にお世話になっている。子どもたち一人ひとりの抱えている問題は、学校だけでは解決できないことも多い。また、保護者自身が悩みを抱えていることもある。担任だけ、学校だけで考えるのではなく、専門性の高い方のご意見をうかがいながら、子どもたちにとってよりよい方法を探っていきたいと思う。そのため、引き続き、関係機関との連携も大切にしていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以前と比べ、地域における子どもたちの思い出が薄れている気がする。 ○ 地域の子どものために、できることをやっていきたい。子どもたちのために、地域を盛り上げていきたい。という感想とご意見をいただいた。
最終改善方策	自己評価結果(見解と改善方策)と同様。